

2014

【第96回】

開催日◎平成26年8月11~25日

球場◎甲子園球場

96回大会データ

▶出場校数 49校 ▶地方大会参加校数 3917校 ▶総入場者数 85万3000人 ▶総本塁打数 36本 ▶チーム最高打率(準々決勝進出).418=敦賀気比 ▶個人最高打率(準決勝進出.12打席以上).545=御築翔(敦賀気比) ▶最多奪三振 31個=平沼翔太(敦賀気比) ▶選手宣誓 中村幸一郎(作新学院)

決勝スコア

三重 0 2 0 0 1 0 0 0 0 3
大阪桐蔭 0 1 1 0 0 0 2 0 X 4

三	重	打	得	安	点	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
(中)	長野勇斗	③	4	1	3	0	投	四	球
(二)	佐田泰輝	3	3	0	1	0	投	三	ゴ
打	鈴木颯馬	2	1	0	0	0	三振
(遊)	宇都宮真真	3	4	0	2	1	遊	ゴ	遊ゴ
(一)	西岡武蔵	3	4	0	0	0	三	道
(左)	稲葉隆也	3	4	1	2	0
左	松村一郎	3	0	0	0	0
(三)	山井達也	2	2	0	0	0
打三	内田 蓮	3	2	0	1	0
(右)	世古 鎌	3	2	1	0	0
投	森竜之助	3	0	0	0	0
投	瀬戸上品	3	0	0	0	0
(捕)	中林健吾	3	4	0	1	2
(投)右	今井重太郎	3	4	0	1	0
計			34	3	11	3								

【残塁】9 【犠打】2

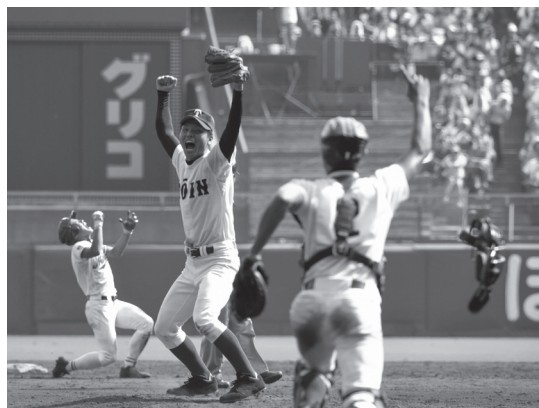
投手	回数	打者	球数	安打	三振	四死球	自責点
今井	7	29	104	7	5	2	4
森	1/3	2	3	1	0	0	0
瀬戸上	2/3	3	7	0	0	1	0

大阪桐蔭	打	得	安	点	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
(左)	中村 誠	③	4	1	2	2	左	道
(二)	峯本 匠	3	4	0	2	0
(三)	香月一也	3	3	0	1	1
(一)	正隨優弥	3	3	0	0	0
(右)	青柳昂樹	2	2	1	0	0
(捕)	横井佑弥	3	3	1	1	0
(中)	森晋之介	3	3	1	0	0
(遊)	福田光輝	2	3	0	2	1
(投)	福島孝輔	3	3	0	0	0
計			28	4	8	4							

【残塁】6 【犠打】3

投手	回数	打者	球数	安打	三振	四死球	自責点
福島	9	39	118	11	2	3	2

【盗塁】長野(7回) 【走塁死】宇都宮(5回)、長野(7回)
【併殺】三重1、大阪桐蔭2 【失策】大阪桐蔭1 【暴投】今井2(2回、3回)
【審判】(主)古川(塁)橋、大槻、土井
【試合時間】1時間41分
【観衆】4万7000人
三重・監督 中村好治 大阪桐蔭・監督 西谷浩一



大阪桐蔭が4度目の優勝を決めた瞬間。

世相 錦織圭、全米テニス準優勝
ソチ冬季五輪、羽生結弦金メダル
御嶽山噴火/「アナと雪の女王」
大ヒット/高倉健、菅原文太死去

1 回戦で春の王者・龍谷大平安(京都)、140キロ超の4投手を擁する東海大相模(神奈川)が姿を消すなか、大阪桐蔭が2年ぶり4度目の優勝を遂げた。決勝でスクイズを外すなど、「野球偏差値」の高い選手が多く、主将の中村を中心によくまとまっていた。

県勢59年ぶりの決勝進出となった三重は、左腕・今井が原動力になった。また中村好治監督の老練な采配も光った。

北信越勢の5校全てが白星を挙げたのは大会初。日本文理(新潟)の主戦・飯塚は全5試合を完投、4強入りの中心になった。敦賀気比(福井)は主戦・平沼を中心に総合力で4強入り。「機動破壊」を掲げる健大高崎(群馬)の平山が1大会8盗塁を決め、93年ぶりに大会最多タイ記録になった。

白丸数字は出場回数
黒丸数字は延長回数

